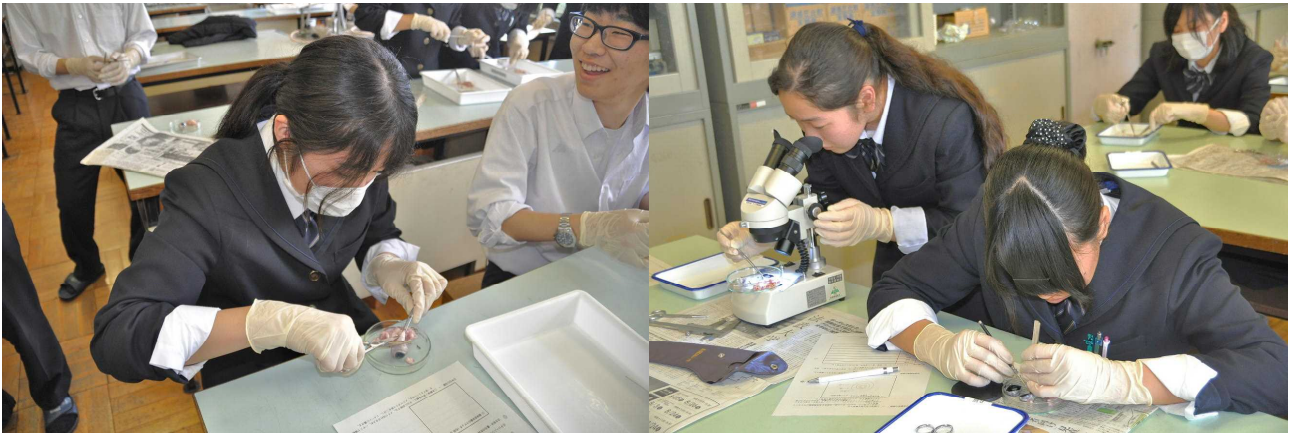


# ブタの眼球の解剖



2014年5月2日、3年3組の生物選択者の授業で「**ブタの眼球の解剖**」を行った。「生物」の**定番**の実験・観察であるが、そのインパクトはかなり大きい。数日前から楽しみにしていた生徒もいたようだ。ブタの眼球は、ヒトの眼球とほぼ同じ大きさ・構造をしているため、眼の構造を学ぶには最適の教材である。また、新鮮な眼球なので、**角膜や水晶体**はきれいに透き通っており、生命の神秘を感じることもできる。さすがに生物選択者だけあって、真剣に取り組む生徒の姿が素晴らしかった。以下は生徒の感想より。（→次の実験は、「ウズラの発生」の観察。本校初）



「初めは少し緊張したが、**だんだん**と楽しくなった。貴重な体験をすることができた。」(R. T)  
「初めて解剖でおもしろかったです。水晶体がきれいでした。またやってみたい。」(M. K)  
「眼の構造を実際に見たことで分かりやすくなってよかった。楽しく実験できた」(S. S)  
「眼の解剖はやったことがなかったし、臭いも強く大変だったけど、一つずつ実物を見ながらやったので、とても勉強になったし、いい経験になったと思う。」(K. T)  
「水晶体がきれいで、ちゃんと字が大きく見えた。顕微鏡でみると鮮明に見えた。」(M. T)  
「勇気が必要だった。」(T. A)

